

愛知江南短期大学

平成18年度第三者評価
機関別評価結果

平成19年3月22日

財団法人 短期大学基準協会

愛知江南短期大学の概要

設置者	学校法人 愛知江南学園
理事長	岸 正倫
学 長	中田 實
A L O	松尾 昌之
開設年月日	昭和45年4月1日
所在地	愛知県江南市高屋町大松原172

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
教養学科		70
生活科学科	生活外E1	75
生活科学科	食物栄養学	50
社会福祉学科		80
現代幼児学科第一部	幼児教育	50
現代幼児学科第一部	地域保育	30
現代幼児学科第三部		40
	合計	395

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

愛知江南短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年6月27日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神・教育理念は確立し、それに基づいた教育目標は全学的に明確に示されており、点検も組織的かつ定期的に行われている。また、学生や教職員、教授会や理事会において教育目標を共有する努力が行われている。

教育課程は教育目標に基づいて体系的に編成されている。各学科・専攻・コースで取得できる資格・免許が多様に用意され、学生のニーズに応えるものとなっている。入学定員や取得できる免許・資格・受験資格について、学科・専攻・コースの単位で細かく見直しが行われ、改革・改善への努力がなされている。学生による授業評価が定期的に行われており、教員の自己評価も行われている。学生の学力向上に対して、全学的に努力がされている。

教員組織などは整備されている。教育環境もよく整備され活用されている。図書館も整備され適正に運用されている。

退学、休学、留年ともに少なく、問題を抱えた学生に対するケアも担任、ゼミ担当教員、学生相談室が連携して対応している。また、良き職業人を育てるという教育目標の達成に向けて、学生を育てる努力がなされている。卒業生の就職先からの評価については、聞き取り調査を実施しており、教育の実績や効果を確認するために卒業生との接触にも努めている。

多様な入試方法、メンタルケアも含む学生の生活支援、さらには学力不足対策、就職への多様な支援など、学内挙げて組織的、かつきめ細かい学生支援がよく行われている。また、学外にも門戸が開かれており、留学生、障害者、社会人、長期留学生などに対する支援体制が機能するとともに充実しており、短期大学と社会人との垣根が取払われ、連携も進んでいる。

研究活動のための条件はよく整備され、教員は研究活動に意欲的に取り組み成果を上げている。

短期大学と地域との双方向連携活動の内容が優れ、人材の交流にいかされ、大学や地域の文化・教育・行政・生活など、多方面の向上に寄与している。また、ボランティア活動が積極的であることもよい。

管理運営体制はすべての面できちんと整備されている。理事長、学長のリーダーシップが高く、その統一の方針に沿って重要課題が決定しやすい体制となっている。

自己点検・評価、相互評価、認証評価の3つを三位一体のものとして認識し、それを計画的に実施することにより、短期大学の改革・改善を進めていこうとする姿勢が認められる。そのための組織もきちんと整備されており、すべての教員、事務職員の参加の下に改革・改善に取り組んでいく体制ができている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域 教育の内容

建築・インテリアコースの、1級建築士受験資格(実務経験4年)をはじめとして全学で19の免許・資格・受験資格が取得できる教育課程が用意されており、学生や社会の多様なニーズに応えている。

カナダのセルカーク・カレッジと姉妹校提携をし、カナダ語学研修、海外幼児教育研修、カナダ4ヶ月留学、海外研修旅行、留学生の受け入れなど、海外研修や国際理解に積極的に取り組んでいる。

評価領域 教育の実施体制

各学科・専攻には短期大学設置基準で定める教員数を上回る専任教員を配置し、また助手・副手も置き、教育体制の充実を図っている。

外国人教員を採用しており、また、オープン・カレッジの公開授業で、一部の授業を地域の人々に公開している。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

担任、ゼミ担当教員、学生相談室との連携のもとに学生をケアしながら、教育目標の達成に全学を挙げて取り組んでいる。

評価領域 学生支援

多様な学生支援システム、および外部に開かれたシステムが機能している。

評価領域 研究

科学研究費補助金などの外部資金の獲得に全学を挙げて積極的に取り組み成果を上げている。

個人研究費のほかに特別研究費、学長特別奨励研究費が用意され、教員の研究活動を奨励・支援している。

評価領域 社会的活動

地域協働研究所を設置し、短期大学と地域との双方向連携活動を行っている。

評価領域 管理運営

「事務機構と教育組織の相互点検評価アンケート」を実施し、教員と事務職員との連携の強化に取り組んでいる。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域 教育の内容

シラバスの充実に努力されているが、自由形式となっている記述内容の統一を図ることが望まれる。

評価領域 管理運営

委員会の数が多いように見受けられるので、その目的・機能に応じて整理・統合し、効率的に運営されることが望まれる。

評価領域 改革・改善

余裕のある専任教員や事務職員をいかし、将来にわたる具体的な方策を講ずることが望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域	教育の内容	合
評価領域	教育の実施体制	合
評価領域	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域	学生支援	合
評価領域	研究	合
評価領域	社会的活動	合
評価領域	管理運営	合
評価領域	財務	合
評価領域	改革・改善	合

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神・教育理念は確立し、教育目標は全学的に明確に示されており、点検も組織的かつ定期的に行われている。

学生や教職員、教授会や理事会において教育目標を不断に確認し、共有する努力がみられる。

評価領域 教育の内容

各学科の教育課程は「人間性豊かな職業人を育てる」という教育理念を反映しており、それぞれの教育目標達成のために編成されている。教養教育は、豊かな人間性の育成を目指すという教育理念に基づき、各学科において10前後の科目で構成され、学科の持つ専門性の基礎を培うための科目が設定されている。教養科目、専門教育ともに充実しており、短期大学にふさわしい内容とレベルを有している。

各学科・専攻・コースで取得できる免許・資格・受験資格が19種用意されており、各学生が目標を定めて学生生活を過ごすことが出来る教育課程になっている。また、受講者の少ない授業も全て開講されており、学生の学びたいニーズに応える努力がなされている。

平成17年度から、講義概要とシラバスを分離し、シラバスは各授業の第1回目の授業で学生に配布し、授業計画や授業方法を確実に伝達している。評価は、筆記・論文・実技・実習・口述・報告書(レポート)・作品の7種の評価方法があり、単一的な評価ではなく、授業科目の性格に応じて総合的に評価が行われている。

学生による授業評価が定期的に行われている。教員の自己評価も行われている。学生の評価と自己評価に大きなずれが生じた場合には、両者の分析結果を学務部に提出するシステムができており、授業内容、教育方法について自己評価を踏まえ改善に向けた努力がなされている。また、外部から講師を招き授業改善のための研修会を開催するなどファカルティ・ディベロップメント（FD）活動への取組みも行われている。

学生の学力低下に対して学科を挙げて、また教員レベルで相当の努力が行われている。少人数制の授業徹底、副手を配置しての個別指導、能力別のクラス編成、ゼミを中心にした学習指導や生活指導の徹底、さらにクラブ活動を基礎技能修得の機会として取組ませるなど、学生指導に向けて多様な方策が講じられている。

評価領域 教育の実施体制

教員の採用、昇任に関する規程はよく整備されており、適切に運用されている。教員の年齢構成はバランスが取れており、専任教員は各業務に意欲的に取り組んでいる。

校地面積、校舎面積ともに短期大学設置基準を充足している。各種実習室、パソコン教室、マルチメディア教室などは整備され、またそれぞれの授業を行うための機器・備品も十分に備えられている。学生や教職員の安全性や障害者対応についても配慮されている。

図書館の蔵書数などや座席数は在学生数に対して適当である。学生の利用を促す努力もなされている。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

単位認定の方法および学習評価は適切である。担任、学生相談室、ゼミ担当者が適切に機能し、退学、休学、留年ともに少ない。また目標を達成することが難しい学生に対するケア（再試験該当者への補講、個別指導、再実習）が充分に行われている。

専門職への就職の割合は全般的に高く推移している。卒業生の就職先からの評価については、平成17年度から聞き取り調査を実施している。教育の実績や効果を確認するために、同窓会を通じて卒業生との接触にも努めている。

評価領域 学生支援

生活支援、学習支援、教育相談など、学生の心身のケアが行き届いており、学生生活支援がきめ細かく行われている。

評価領域 研究

研究活動が奨励され、教員の研究は意欲も高く、成果も上がっている。

研究紀要に査読制度を導入し、第三者による査読を通して研究論文のレベルの向上を図っている。

研究活動を活性化するための条件（研究費、研究発表、機器・備品、図書、研究室、研究時間の確保）はよく整備されている。

評価領域 社会的活動

社会活動に対する理念が打ち立てられ、双方向システムにみられるように、社会との連携が機能している。

学生によるボランティア活動が意欲的に行われている。

学生の留学、他国との交流の受け入れなどが積極的である。

評価領域 管理運営

理事会、常任理事会、評議員会がそれぞれの役割を果たしつつ、学校法人の総括的な管理運営にあたっている。

教授会の下に21の委員会が設置され、個別の課題への対応にあたっている。

短期大学に必要な施設設備が整備され、適切な管理がなされている。

評価領域 財務

定年制の見直しなどで人件費比率の是正に努めている。

評価領域 改革・改善

自己点検、相互評価、認証評価に対応する組織として、点検・評価委員会が設置され、学長のリーダーシップの下に管理運営、研究、学務の3部会が実務を担っている。また、その報告書は公表されている。

理事長、法人事務局長、学長などを中心にして「将来構想委員会」が設置され、改革・改善のための取組みが積極的に進められている。また、すべての教員、事務職員を対象にして「将来構想勉強会」が行われている。

平成12年度に相互評価を実施し、その成果を活用するために評価報告書を公表している。